

プラン・フレンズ開発教育教材

制作：プラン・フレンズ 制作協力：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

はじめに

途上国には貧困と結びついた男女格差が存在します。稼ぎ手として期待できない、結婚持参金が必要になるといった理由で女の子の出生が歓迎されなかったり、水汲みや家畜の世話のために女の子が学校に行かせてもらえなかったり、まだ大人にならないうちに結婚させられるといった問題が存在します。

こうした問題は、女の子たちの健康や人権を損なうだけでなく、将来、母親になったときに乳幼児の生存率に影響し、ひいては家計や社会の貧困問題に影響します。そのため、プラン・インターナショナルは、2007年から「Because I am a Girl(BIAAG)」キャンペーンを開始し、途上国の女の子の支援に力を注いできました。2015年に国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」の前文においても、「すべての人々の人権を実現し、ジェンダー平等とすべての女性と女兒の能力強化を達成することを目指す」という目標が掲げられています。

その一方で、日本の開発教育において、途上国のジェンダー不平等問題や女子教育の重要性に焦点を当てた教材は極めて限られています。しかし、途上国に限らず普遍的な人間の尊厳について考えるとき、女の子であるがゆえに、健康に成長できず、教育を受けられず、家庭内の地位や社会的地位が低く、様々な苦痛や暴力を受けやすい状況にあるという現実を知ることはとても重要です。そして、女子教育の充実が、乳幼児死亡率の低下や家計の向上、社会の貧困削減など、途上国の問題解決の大きなカギになるということも、重要な学びになるでしょう。

本教材は、開発教育であまり取り上げられてこなかった、途上国の女の子の現状と女子教育の重要性に焦点を当てています。日本社会およびグローバル社会の将来の担い手となる小学生、中学生、高校生が、当事者意識を持ってこうした問題を理解し、その問題解決のためのアクションを起こすようになる。本教材がその一助になれば幸いです。

プラン・フレンズ一同

プラン・フレンズとは

プラン・フレンズは、国際NGOプラン・インターナショナルの個人スポンサーによる開発教育ボランティア・グループです。プラン・インターナショナルが途上国での活動を通じて得る、人々の生活状況や地域開発の問題点と可能性などの情報を活用しながら、日本国内での開発教育を推進するために活動しています。

ミレニアム開発目標(MDGs)が設定された2000年以降、日本国内において、小学校、中学校、高校での開発教育の実践が増加し、NGO等の援助機関への講師派遣依頼も増加しています。こうした開発教育への期待に応えるため、2007年にプラン・フレンズが結成されました。メンバーには、途上国での業務経験を持つ社会人、元教師、現役の高校、大学教師など開発教育に生かせる経験を持った人々が集まっています。